

小麦新品種「ゴガツコムギ」について

吉田美夫・北原操一・鶴 政夫・福岡寿夫

牛藤英夫・柏尾俊光・荒木 均

(九州農業試験場)

YOSHIDA, Y., KITAHARA, S., TSURU, M., FUKUOKA, H.,
GOCHO, H., KASHIO, T. and ARAKI, H.
A New Wheat Cultivar "GOGATSU-KOMUGI"

登録番号 小麦農林118号(系統名:西海135号)

来歴 昭和39年に、九州農業試験場において、極早生-2を母とし、農林61号を父として人工交配を行ないF₃に由来する派生系統として、派生系統育種法によって選抜および固定をはかってきたものである。昭和46年度(F₈)より西海135号の系統名で関係各県に配布し、地方適否試験に供試した。昭和49年度における世代は、雑種第11代である。

本品種は、農林61号と比較して、次のような形態のおよび生態的特性をもっている(第1表参照)。

形態的特性 短かんで、そう(叢)性はやや直立形で、株は閉じている。稈色は白色で、穂長はやや短く、小穂

着生密度はやや疎である。子実の充実はよく、1ℓ重はやや重く、千粒重はやや軽い。粒色は淡褐色である。穂数、穂型(紡錘状)、芒の長短・多少、かんの太さ、葉色、葉幅、粒形、粒の色沢、硝子率、固定度などについては、農林61号と同様である。

生態的特性 出穂期で6日、成熟期で7日早生である。約13cm短かんなので、耐倒伏性はそれだけ大きい。九州農試の成績によると、農林61号より出穂が1日早まることによる減収の程度は、平均して3.3%である。このことを考慮すると、収量についてゴガツコムギが農林61号とほぼ同じであることは、早生としては多収であるといえる。品質は、外観的にも、内容的にも大して違わな

第1表 ゴガツコムギと農林61号との比較

形 質	ゴガツコムギ	農 林 61 号	試 験 実 施 農 試 名	
出 穂 期 (月・日)	4.10	4.16	九 州	
成 熟 期 (")	5.29	6. 5		
か ん 長 (cm)	72	85		
穂 長 (")	8.9	9.6		
穂 数 (本/m ²)	331	321		
1 ℓ 重 (g)	770	753		
千 粒 重 (")	31.3	33.4		
1 穂 着 粒 数	33.1	32.0		
収 量 (kg/a)	標 準 栽 培	31.6 (98)		32.4 (100)
	多 肥 栽 培	34.4 (101)		34.1 (100)
	密 播 多 肥 栽 培	35.4 (100)	35.2 (100)	
	平 均	33.8 (100)	33.9 (100)	
穂 発 芽 性	難	難	岡山, 九州	
縮 び 病	強	やや弱		
黒 さ び 病	やや強	やや強	熊本, 中国, 食総研, 九州	
耐 倒 伏 性	中	やや弱	静岡, 九州	
品 質	"	中		
赤 さ び 病	やや強	やや強		
赤 か び 病	中	"	鹿児島, 高知, 東海近畿, 九州	
白 渋 病	強	"	長崎, 九州	

注)九州農試における成績は、約5ヵ年間の平均値を示す。

いが、製粉歩留りがやや劣り、エクステンソグラムのR/Eが小さいようである。耐病性については、縮い縮病、白波病にはより強く、赤さび病、黒さび病については同程度であり、赤かび病にはやや弱い。なお、まき性程度はIであり、穂発芽性については同程度である。

栽培上の注意 本品種の栽培に関しては、農林61号に準ずるが、穂数を確保する栽培法（多肥・密ばん栽培など）をとることが望ましい。

適地および奨励品種採用県 ゴガツコムギは、九州中部以北の平たん地帯に特によく適応し得るものと考えられる。早生なので、春先の寒害との関係で中山間部への導入は避ける。現在、熊本県では奨励品種に、福岡県では準奨励品種に採用されており、熊本県では2,500ha、福岡県では2,600haの普及が見込まれている。

命名の由来 早生なので、5月中に収穫できる意。